

続
とちぎの
サムライ
vol.28

全国津々浦々
お城めぐりの旅

藤堂高虎と
ゆかりの城

ここ数年、城址歩きをしていると、さまざまな城と歴史に関わることになります。毎回のことですが、自分勝手に書いておりますので、史実と異なる部分があるところはお容赦願います。
(一社)宇都宮建設業協会 木澤喜人

私事ですが、(公財)日本城郭協会が全国各地の名城探訪の手がかりとして2006年に「日本100名城」を選定し、お城ブームの影響で、2017年3月に『続日本100名城』を発表しました。城跡歩きが「推し」の私としては、何とか全城を踏破したいと思って城跡巡りでは100名城・続100名城を含めて見て歩いてきました。今年(2023年)4月8日に大分県の臼杵城ほか2城を訪城し、日本100名城・続100名城ともコンプリート！理屈の上では、47都道府県を最低でも2周したことになります。100名城の「根室チャシ群」・続100名城では長崎県の対馬の「金田城」、五島にある「福江城」のアプローチが大変だった思いがあります。一文の得にもならない単なる「城バカ」です。

今回は、築城の名手として有名な「藤堂高虎」のゆかりの城を紹介していきたいと思います。高虎は、近江の国で生まれ、暮らしは貧しかったようですが、身長6尺2寸(約190cm)の大男だったようです。主従関係が厳しかった戦国から江戸時代に7度も主君を変えて、出世したことも有名です。生涯で築城に携わった数は20を超えるといわれています。藤堂高虎が築城に関わった代表的な城を見ていくことにします。

申し訳ありませんが、紙面のスペースが限られておりますので、個々の城址の詳細について知りたい方は、ウェブサイトを御覧ください。

赤木城址：三重県熊野市



対岸の峠から見た赤木城址



◎赤木城址：三重県熊野市

標高約230mの丘陵に築かれた、藤堂高虎が30代の頃に築いた城。当時、豊臣秀吉による検地への反発から大規模な一揆が頻発していました。1589年(天正17年)頃に、一揆鎮圧の拠点として、この「赤木城」を築きました。一揆に参加し罪を犯した者は、赤木城の西方の田平子峠刑場跡にて斬首獄門にされました。

大洲城：愛媛県大洲市



◎大洲城：愛媛県大洲市

鎌倉時代の終わりに創建され、約200年以上宇都宮氏が居城していました。高虎が「大洲城」の城主となったのは、1595年(文禄4年)のこと。高虎は大洲城を得ると、改修を行い自身の居城としました。城周辺の川を、天然の水堀として利用し、地形をうまく使って大改修を実施するなど、中世からの城郭を近世城郭へと変化させました。のちに、城主は藤堂家から脇坂安治へ引き継がれました。

◎宇和島城：愛媛県宇和島市



元々は鎌倉時代に造られた板島丸申城という城が、数名の城主の変遷を経て、1595年(文禄4年)に藤堂高虎が宇和郡7万石を与えられ入城し、城の大改修に着手しました。城全体は五角形をしていますが、実際には四角形と見間違うような微妙な形態です。敵が四方から攻めてきたときに、一つの方向に死角を造るためだとか？現存の天守は1665年(寛文5年)伊達宗利によって建てられました。規模は大きくありませんが、白壁が美しく、破風や懸魚など御殿建築の装飾が随所に施された美しい姿が印象的。

今治城：愛媛県今治市



藤堂高虎像と天守

◎今治城：愛媛県今治市

1602年(慶長7年)に築城。関ヶ原の戦いの戦功により、伊予半国20万石を拝領した藤堂高虎が、瀬戸内海に面した海岸に築いた平城。海水を引き入れた三重の堀に囲まれ、海から堀へ直接船で出入りでき、広大な水堀と

江戸城：東京都千代田区



反りのない直線的な石垣、脆弱な地盤を安定させるための幅広い犬走り、日本初ともいわれる「層塔型」の五重天守等、当時としては最新の技術をもって築かれており、藤堂高虎の代表作ともいわれています。

◎江戸城：東京都千代田区

室町時代に「太田道灌」が築城し、1590年(天正18年)に徳川家康が居城としました。改修が繰り返されますが、本格的な工事が開始されたのは、徳川家康が將軍職を息子の秀忠に譲った1604年(慶長9年)頃といわれています。新しい「江戸城」の縄張りは、築城の名人である藤堂高虎に任せられました。徳川家康は、江戸城を時の権力者にふさわしい城にして、本丸を広くと考えましたが、西には豊臣秀吉亡きあとの豊臣方が残っていたため、実戦にも対応できる城として改修したとのこと。

伊賀上野城：三重県伊賀市



◎伊賀上野城：三重県伊賀市

1585年(天正13年)に、筒井定次によって築城されました。1608年(慶長13年)に、藤堂高虎が徳川家康から伊賀10万石を含む22万石の恩賞が与えられ、豊臣氏との戦に備えるために「伊賀上野城」の改修に取り掛かりました。本丸も拡張され、櫓も10棟造られ、石垣は30mと高くなり屈強な城へと変化しました。しかし、伊賀上野城は豊臣氏が減ったためもあって、未完成のまま築城は中断されました。築城途中で暴風雨によって壊れてしまった五重の天守もそのままにされてしまいました。昭和になって天守が復元されました。ユーチューブに「空中散歩 伊賀上野城と忍者の城」 <https://youtu.be/9lne890IsTs> でアップしています。

津城：三重県津市



◎津城：三重県津市

織田信長の弟である「織田信包」が1580年(天正8年)に築城した城です。低湿地に建てられた小規模ながらも防御の堅い平城でした。1611年(慶長16年)藤堂高虎は津城に入るなり、石塁をより高くし、三重の櫓を作るなど、大規模な改修を始めました。あわせて、町人町・武家屋敷の整備など高虎の築城技術が城だけでなく、町づくりにまで及んだ場所といえます。



藤堂高虎公の銅像

篠山城：兵庫県丹波篠山市



◎篠山城：兵庫県丹波篠山市

篠山城は、関ヶ原の戦いのあとに、徳川氏が豊臣氏包囲の目的で藤堂高虎に築かせた水の上の城。豊臣氏のいる大阪に近く、攻められる可能性もあったことから、城は内堀と外堀を有し、内堀内に本丸と二の丸を設け、外堀の外周は1辺約400mのほぼ正方形で、東・北・南の門には馬出を設置して守りを固めていました。二の丸を囲む土堀は所々、屏風折りに外側に突き出しており狭間の死角を少なくする工夫がされていました。南東隅に天守台がありますが、幕府の指示で天守閣は建てられず二間四方の単層櫓が建てられていました。藤堂高虎が縄張りを行い、普請総奉行を池田輝政が務め、15ヶ国20の大名の助役による天下普請により6ヶ月で完成しました。

戦国を武勇と知略で切り開いた武将として著名な藤堂高虎は、人並外れた大きな体と勇猛果敢な性格で、初めて仕えた浅井長政のもとでは、「姉川の合戦」で足軽として参加。その後主君を替えた後「羽柴秀長」に見込まれ、多くの合戦で顕著な戦功を挙げ、全幅の信頼を受け活躍しました。秀長亡き後は秀吉に仕え、秀吉亡き後は徳川家康に仕え、武功で信頼を得て、築城技術の名手として大いに活躍しました。家康の側近として重用され、「関ヶ原の戦い」「大坂の陣」にて著しい戦功を挙げ、家康から伊勢国の一部、伊賀の領主を命ぜられ初代津藩主となり、最終的には、32万石余の大々名に上り詰めました。藤堂高虎の築城に対する能力は城だけに限らず、日光東照宮の大造営にも活かされたとのこと。いつも思うことですが、神様はみんなに平等ではなく、マルチプレイヤーには更に活躍できる能力を与え、凡人が想像もできないレベルまで引き上げることが歴史的にも実証されています。野球では「大谷翔平」選手が素晴らしい活躍です。それに引き換え、何の取柄もない私は……頓首